

# アガペワールド



London  
Keiko C Holmes  
35 Leyburn Gardens  
CR0 5NL London  
E: [agape.kingdom@gmail.com](mailto:agape.kingdom@gmail.com)  
Tel: +44(0)20 8686-4263  
[www.agapeworld.org](http://www.agapeworld.org)

日本  
小菅啓子  
横浜市南区中村町5-308-12  
E: [victory8068@gmail.com](mailto:victory8068@gmail.com)  
Tel: 090-1266-3390  
[www.agapeworld.co.jp](http://www.agapeworld.co.jp)

☆  
Merry  
Christmas  
and a Happy New  
Year 2016. May God  
bless you through out  
Christmas and the  
☆coming year☆

主のご降誕をお喜び申し上げます。前回のNLをお届けしてから、はやいもので半年が過ぎ、今年もクリスマスシーズンを迎える時となりました。この1年間、アガペワールドが主に守られ、活動することが出来ました。皆様のお祈り、ご支援を心より感謝いたします。今年も恵子ホームズさんが来日し、多くの教会でお話しをする機会が与えられましたことも感謝でした。お招き下さった教会の皆様へ心よりお礼を申し上げます。戦後70年の年を迎えて、多くの関係者はすでに天に召されましたが、家族の方々が私たちの活動が続いていくことを望まれ、東南アジアの方々も私たちの活動を期待されています。

来る年が皆様にとって主の祝福に満ちた素晴らしい年でありますように心よりお祈りいたします。

支援会：小堀洋志 豊代子

アガペワールドをご支援してくださる皆様、今年はどのような年でしたでしょうか。祝福も失望も経験されたことでしょうか。私たちアガペワールドの面々はいろんな試練も通されました。私たちはどんな中にも、神に信頼を置き、神に助けを求め、神を賛賛してまいりました。今苦しみの中におられる方には、神の慰めと希望が与えられますように。祝福の中におられる方には、主なる神が祝福を増し加えてくださいますように。

さて、私（ホームズ）は、今シンガポールに来ています。ロンドンで知り合ったインドネシアの方が、私どもの活動を知り、「ぜひシンガポールや

インドネシアに来て和解の活動をしてください」とおっしゃり、航空券をプレゼントしてくださり、その方の家に招いていただきました。今はクリスマス前ですからどの教会も忙しい時期ですが、いろんな教会にお連れいただき、またこちらの要人とも合わせていただき、交流させていただいています。正式な活動は年を越してからになりそうですが、この活動がこちらの方々に喜ばれていて、必要性を強く感じています。1月にはインドネシア、2月にはマレーシアにも行くことを計画しています。次号でこちらでの活動内容を詳しくお伝えできると思います。皆様のお祈りをよろしくお願い致します。

## 心の癒しと和解の旅・2017年

2017年11月に心の癒しと和解の旅を計画しています。元捕虜の家族の方々が今の所5名ほど希望しています。熊野のアガペワールドの方々が11月が紅葉が綺麗なので、と11月を勧めてくださいました。家族の方々の希望で長崎にも行くこととなります。よろしくお祈りいたします。

長崎・香焼の捕虜収容所跡地の記念碑除幕式、および元米兵捕虜との交流会に参加して

9月13日、「福岡俘虜収容所第2分所」の犠牲者を追悼する記念碑の除幕式が、長崎市香焼（こうやぎ）町の同収容所跡地で行われホームズ恵子とともに参加しました。（詳細はクリスチャントゥデイに記事を書きましたのでそれをご覧ください。

<http://www.christiantoday.co.jp/articles/17044/20150916/nagasaki-kouyagi-prison-camp.htm>

この収容所は、先の大戦で捕虜となった連合軍兵士を、多い時には約1500人も収容していた。ここで亡くなったオランダ、英国、オーストラリア、米国の捕虜計73人の名前と、「国際条約に反した過酷な扱いにより」の記述のある追悼碑、また戦後すぐに救援物資を同収容所に運んでいた米軍機の墜落事故で死亡した米兵13人の記念碑も共に除幕された。

当時、日本各地には同様の捕虜収容所が130以上あり、多くの捕虜が過酷な労働に従事させられていた。福岡収容所 初代所長は戦後牧師となったクリスチャンの調正路（しらべ・まさじ）中尉であったため、クリスマスには捕虜と共に礼拝をささげ、所内の扱いも人道的であったが、彼が異動させられた後は劣悪な環境になっていった（詳細は、林えいだい著『インドネシアの記憶』）。なお、調牧師の息子も、この日の式典に参列された。

この記念碑の建立は、地元のタクシー運転手小松氏と英国人ルポライターの出会いから始まる。1995年、英国から収容所跡地を訪ねてきたルポライターの乗せた小松さんはこの時初めて収容所のことを知る。その後も跡地を訪れるさまざまな捕虜関係者から収容所のことを尋ねられ、小松さんは跡地に記念碑を建てることを思い立つ。記念碑建立のために奔走するが、行政の壁に阻まれ一時は断念する。しかし、この話を聞いた当時市議会議員であった方が動き、この日を迎えることとなる。70年前のこの日はちょうど、捕虜たちが母国に向け香焼を発った日でもあった。

式典後の懇親会で私は、父親がここに送られ自身は5歳の時にインドネシアの民間抑留所に入れられた女性としばらく話す機会がありました。彼女はクリスチャンで8年前に赦すことを学び、やっと過去の呪縛から解放されたと話してくれました。民間人抑留所での栄養失調のために背骨や足の骨が曲がっていました。懇親会の会場が靴を脱いで上がる場所

でしたので彼女の曲がった足を目にし、また、いまだに痛みはやまないと聞き、苦しみがずっと続いていることがわかりました。その彼女が長崎の原爆資料館を訪れ、その悲惨さを目の当たりにして、申し訳なくお詫びをしたいと思ったと皆さんの前で話されました。

10月13日には東京で9名の元米兵捕虜との交流会が開かれました。シンガポールやジャワで捕まった捕虜たちが日本に連れてこられたわけですが、その時の輸送の状況はどんなであったのかとの質問に対して、元捕虜の一人は「言葉に表せないほどだった。」と言っただけで詳しくは語りませんでした。彼が続けていったのは、「もうそのことは赦した」という言葉でした。私のそばの人は、なんでそうにできるのだろうか、つぶやいていました。会が終わった後、他の元捕虜ウォーレンさんと話をすると、同伴者の娘さんもクリスチャンで、主が赦してくださったから私たちも赦します、と言ってくれました。私たちが謝る前に赦しを運んで来てくださった人々でした。

どうして赦すことができるのだろうか、との疑問に主催者の一人の方はメールで私に「足るを知るもの」ができるのではないかと書いてこられましたが、私は「自分の罪を知るもの」ではないだろうかと思ってきました。



## 父と神風パイロット ディビッド・ヒンキンズ

1944年12月25日（私の誕生日）と1945年5月9日（HMSフォーミダブルに乗っていた父が神風パイロットの攻撃によって戦死した）この二つの日付は私にとって記念すべき日です。私は父を知らずに育ち、年頃になるまでは特別父のことを思ったことはありませんでした。それでも父親のいる家庭とはどういうことかなあ、くらいにしか考えたことはありませんでした。私は1962年に英国海軍に入り、1967年に退役しました。時は流れ、私はモーリーンと結婚、二人の息子、マークとアンドルーが生まれました。

ある日母と私はHMSフォーミダブルの戦闘員だった人たちの親睦会に招かれました。そこで父のことを知ったのです。彼らの話によると、父はP3高射砲のリーダーで、敵の戦闘機が戦艦の高射砲を目指して突撃してくるのに気付くと、他のクルーを避難所に移動させ、一人で戦ったのです。特攻隊員黒瀬順斉（よしなり）の突撃により父も彼も戦死しました。

父が命を救った4人の元海軍兵と話しながら、父の行動に誇りを感じつつも、「この人たちは生き永らえて、なぜ父は死なねばならなかったのか」と嫉妬の感情に苛まれました。4人の一人、タフ・エバンズが、父の勇敢な行為を表彰してもらいたいと懸命に努力したのだけれど無駄だったと教えてくれました。以来、私は父に対する理解を深め、特攻隊員に家族がいたのか、息子を残して逝ったのか知りたくなりました。数年後、死期を前にタフが私に、父のために勲章をもらう努力をするようにと、強く勧めました。私は彼に彼の後を継いで努力すると約束しました。時は流れ、ある時教会の礼拝で次のような賛美が始まりました。

父なる神よ。あなたが親であることもあなたの愛とケアをも知らずに  
どうして生きてこられたのでしょうか。今私はあなたの家族にさせていただきました。  
父なる神よ。あなたは私のそばにいつまでもいてくださるのですね。



その時私は知りました。この世の父を知らなかったけれど、天国にはいたのだと。そして再びあの特攻隊員には息子がいたのかと考えました。主イエスの教えと憎しみは憎しみを破壊することに気づいて、この時までは私には日本人への憎しみや恨みは消えていました。タフの言葉を思い出して私は、英国海軍と国に、働きかけましたが、好ましい結果が得られず、私は日本政府に手紙を書き、その特攻隊員に家族がいたかどうか尋ねました。自分の政府に相手にされなかったので、この時は期待していませんでした。ところが、2014年の10月14日に、ロンドンの林景一日本大使が、妻と私をロンドンに招いてくださり、長時間私共と話し合ってくださいました。林大使は心から話を聞いてくださり産経新聞社ロンドン所長、内藤氏にフォローアップを頼みました。内藤氏がインタビューのため、我が家を訪れました。その後日本のテレビ局がインタビューに訪れましたが、その後しばらくは音沙汰がありませんでした。

しかしBBCのSongs of Praiseという番組の撮影がありました。それはVJ Day（日本に勝利した記念日）の後の日曜日に放映されました。次には日本のテレビ局から更に撮影したいと電話がありました。当局は特攻隊員の弟で東京郊外に住む黒瀬宗義（むねよし）氏の存在を探し当てたのでした。彼は私に大変感動的なビデオを送ってくれ、いつか私に、和解のために会いたいというメッセージが添えられていました。

私は心から東京に行きたいと願いましたが経済的に不可能でした。宗義氏は英国に来るほど丈夫ではなく、私たちの出会いは不可能に思えました。私は主を忘れていたのです。それから間もなく私はBBCの朝の番組に出、宗義氏のビデオのことを話しました。その後ラジオの生番組に出る機会も与えられ、そこでこれまでの経過と私の宗義に会いたい願い、および経済的には無理な事を話しました。その後ディレクターが声を弾ませて伝えてくれました。あるロンドンのビジネスマンが「二人分の費用を全て出す」と申し出てくれたことを。



数週間後にモーリーンと私は非常に美しく静かな東京の茶庭（旧古河庭園）で会いました。お互いに必要な、和解、赦し合い、平安について語り合い、多くの過去の悲しみや痛みが消えて行きました。宗義氏と私は再び会う事があるでしょうか。それは分かりません。でも私たちは桜の咲き誇る日本での再開の夢を心に抱き続けています。

後書き：旧古河庭園でフジテレビが撮影しました。ホームズはこの日ディビッド家族と一緒にでした。黒川さんと美しい娘さん（尚子さん）ともお話できました。特攻隊員7機で攻撃するはずでしたが、隊長であった黒川さんのお兄さんは、他の特攻隊員にUターンを命令し、一人でHMSフォーミダブルに突撃しました。黒川特攻隊員は未婚、22歳でした。

献金をいただいた教会、団体  
 本郷台キリスト教会、久遠キリスト教会、ホームチャペル・エリム、愛のいずみキリスト教会、  
 屯田キリスト教会、狭山ヶ丘チャペル、京都オンヌリ教会、主イエスキリスト教会、一麦東京教会、  
 八千代福音キリスト教会、ニューライフファミリーチャーチ、埼玉栄光キリスト教会、  
 アライズ横浜チャーチ、グレースコミュニティー教会  
 （順不同）



### シンガポールになぜ蚊がいらない？

この国は年中蒸し暑い所ですが、あまり虫はいなく、蚊はいません。それは、政府のとりしまりが厳しく、1週間に一度は国が除虫剤を撒き、また民家を突然衛生士たちが訪問し、もし蚊がいたり、死んでいたり、ポーブラが見つかった場合は、1匹の蚊に対して100ドル（シンガポールドル）、日本円で約1万円でしょうか、罰金がつきます。何年前か、友人の義理のご両親の庭で5匹の死んだ蚊が見つかり、罰金500ドルを支払わされたそうです。こちらでは蚊がいるんな病気を運んできますから、このような対策がとられているのですね。

アガペワールド支援会（代表：小堀洋志）  
 195-0061東京都町田市鶴川1-17-9  
 Tel/Fax: 042-810-5481  
 Email: [kobori531@jcom.home.ne.jp](mailto:kobori531@jcom.home.ne.jp)

支援金送り先：名義は「アガペワールド」支援会  
 ＊郵便振替：00180-9-679184  
 青色振り込用紙を用意しています。  
 ＊ゆうちょ銀行：記号10040 番号29475731  
 ＊三菱東京UFJ銀行：普通口座  
 鶴川支店（233）番号0319665